

古河電工 電線電業 産業

25年度、営業利益3倍目指す

次世代車・再エネなどで機能線拡販

古河電工産業電線（本社・東京都荒川区、社長・白坂有生氏）は2025年度までをめぐり、営業利益を19年度比3倍を目指す。産業用ゴム被覆電線など幅広い製品群を有する機能線事業で、新製品を拡販。次世代車や再生可能エネルギー、防災・減災など社会の要請に伴い伸びる分野での展開を強める。建設用電線を中心とする汎用線事業は生産効率化や高施工性のアルミ電線強化などで収益力を高める。

機能線事業では成長特性と付加価値を高め、入する。そのために需要インゲや、捉えたニーズ分野に対し技術開発で新たな新製品を積極的に投入を見定めるマーケティングに力を入れる。技術開発で

変化を捉える提案で拡販。次世代車関連分野では電動化などの動きに対応する。電動車向けでは大電流化などに合わせた開発を検討。

「材料技術を生かし配線設計の自由度向上に貢献したい」（白坂社長）考えた。

親会社の古河電工と連携。加えて顧客の要求に基づき柔軟性や耐熱性などを最適化した樹脂材料を製造するため設備面での取り組みを進める。成長分野では市場の

野では電力・通信インフラの防災対策や国土

強靱化に向けたニーズに対応。ここではアルミ製の建設用電線で培った被覆材や導體設計などのノウハウを生かしたいと考えた。

汎用線事業では各工場で製造する品種分担の最適化などにより、生産効率を向上。軽量化で施工性に優れたアルミ電線について、市場への浸透が進んでいくとみており、ラインアップ拡充や生産能力の強化などで拡販をバックアップしていく。

